

重誓寺

重誓寺の歴史

重誓寺は浄土真宗本願寺派の寺院である。その歴史を辿れば、治承4年(1180)高倉上皇が、巖島行幸の途中淀川を下り、川尻の藤原國網の寺江山荘に泊まれたが、その山荘が繩御殿とも呼ばれていた。後に高倉上皇がそれを仏法弘通の場として、人々を現当安隠ならしめるように宜うた。

そのお言葉を継承して、藤原國網、阿弥陀如来画像を安置して、白蓮院と名付け、大勢の人々が参詣していた。

その後、文暦元年(1234)國網、賢浄という僧を請じて人々を教化させていた。賢浄は島津友廣という鎌倉の武士であったが、親鸞聖人関東御化導の節、帰依してお弟子となり、法名を賢浄と賜わったと伝えられている。



写真■本堂

完工 御遷座法要(昭和52年(1977)5月15日)

開基賢浄より当院第10代宗賢の時代に、本願寺第8代蓮如上人が、明応5年(1496)上町台地に本願寺の坊舎を建立された。その頃、蓮如上人が当寺にお立ち寄りされ、御名号を御染筆なし下された。

また、境内に松と藤をお手植されたが、松は早く枯れ、藤はその一部が残っていたが、本堂のすぐ裏にあったため昭和20年(1945)6月7日の戦災で本堂と共に焼けてしまった。

昭和19年(1944)梵鐘が軍需の為供出された。



写真■山門

平成15年(2003)3月新築

方便法身の画像 / 阿弥陀如来木佛



当院第11代西了に至り、本願寺 實如上人より「重誓寺」という寺号を賜わった。

永正17年(1520)方便法身の画像を(現存:写真左)、貞享元年(1684)阿弥陀如来木佛を(現存:写真右)本願寺より賜わった。

写真■
方便法身の画像(左)と阿弥陀如来木佛(右)

「重誓寺真宗関係史料」は、大阪市指定文化財(分類:指定有形文化財・歴史資料)として指定されている。

当院第13代浄念の時、本願寺と織田信長との間に石山合戦がおこり約10年間本願寺は籠城した。その時、この榎並の村々より番衆や兵糧を送った。特に青田を刈って夜ひそかに運んだということで「青田刈り」という言葉が出来たそうである。

それを起源して本願寺よりこの榎並の寺、門徒にご消息が下され、江戸時代に榎並十四日講という講社が出来て、昭和の中頃まで、榎並(旭区、城東区、都島区)の浄土真宗各寺で毎年その御消息披露の法座が開かれていた。

明治5年(1872)に小学校の制度が始まったが、明治8年(1875)7月に寺内に中村小学校が設立され、大阪府第五大区3小区で江野、中(中宮)、南島(大宮)、荒生(生江)、内代、関目の子弟が通学した。その後、

明治13年(1880)3月に5番小学校、明治20年(1887)4月に中村簡易小学校と称し、明治22年(1889)7月城北尋常小学校が創立されるまで続けられた。

昭和20年(1945)6月7日、大阪市北東部の大空襲があり、寺は焼夷弾で本堂庫裡書院等が全焼した。

その時、多くの寺宝、記録が消失したが、次のものが疎開により消失を免れた。

御本尊木佛(先述)、方便法身画像(先述)、聖徳太子画像、七高僧画像、その他山門、喚鐘、大銀杏等。

昭和52年(1977)門信徒の協力により現在の本堂が再建された。

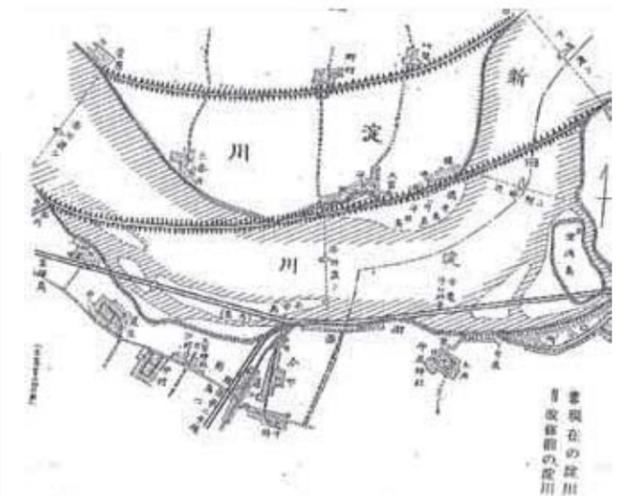
平成15年(2003)蓮如上人500回忌当寺28代住職継職法要の記念行事として山門などが新築された。

大川尻

淀川の汀、中村をいふ、むかし川船にて西海へ趣く時は必ず船をここに繋ぐなり。

光親卿の記に曰く、壽永年中五条大納言國網卿ここを領し、高倉上皇巖島行幸の時、行宮を営講すと云々。(摂津名所図會)

かくて、御舟をいだして、こち風をおいて下らせ給、さる時に川じりの寺江といふ所につかせ給ふ、國網の大納言御所つくりて御まうけ心をつくして、御舟ながらに差し入れて、釣殿よりおりさせ給ふ。(高倉院巖島御幸記)



図■改修前淀川図

資料:旭区政誌 昭和28年(1953) 大阪市旭区役所発行より転載

近世 淀川洪水の歴史

- ①延寶2年(1674)6月14日 : 延寶の仁和寺切
- ②享保20年(1735)6月21日 : 享保の枚方切
- ③享和2年(1802)6月27日 : 享和の仁和寺點野切
- ④文化4年(1807)5月5日 : 文化の八幡切
- ⑤明治元年(1868)5月11日 : 徳庵切
- ⑥明治18年(1885)6月17日 : 枚方切
- ⑦明治29年(1896)より堤防改修
- ⑧明治43年(1910)竣工